

今回は、泌尿器科長兼人工透析室長の高岩正至医師にお話を聞いてみましょう。

Q▶ 慢性腎臓病（CKD）が注目されているようです。

A▶ CKD とは慢性に経過する全ての腎臓病を指しており、新たな国民病とも言われています。初期は自覚症状がほとんどないため、尿や血圧の検査で異常があれば早めに受診することが大切です。CKD の患者さんは複数の疾患を持つ人が多く、当院では、他科の専門医と連携して治療を進めています。また、食事や運動に関する最新の情報を基に生活習慣の改善につなげていきます。腎臓はある程度機能が悪化すると正常な状態に回復するのは難しく、脳血管や循環器に障害が出るリスクもあり、病気が進行すると腎不全となって透析療法が必要になる場合もあります。

Q▶ 市立病院での透析療法について教えてください。

A▶ 高齢化に伴って透析療法を受ける人が増えているため、8月から人工透析室を2床増床しました。腎臓の代わりに老廃物などを取り除いて身体を浄化する

透析には血液透析と腹膜透析があります。血液透析では装置との間で血液を循環させるため高流量の血管を患者側に作りますが、末梢血管が未発達でそれが難しい患者さんには、比較的長期に留置できるカテーテルを入れています。また、血液透析が困難な末期腎不全の患者さんには、持続携帯式腹膜透析療法（CAPD 療法）を行い、自宅などでの透析をしています。また、足の壊疽^{えそ}を起こすことが多いので、血流の検査をするなど状態を定期的に確認しています。危険性が高くなれば当院の心臓血管外科医師と連携して治療します。透析療法は長期にわたるため、患者さんの心や生活環境に配慮し、在宅療養相談室の職員などと協力しながら診療に取り組んでいます。

